

平成30年度スーパーバイザーによる学校教育支援事業報告書

研究テーマ「伝え合い つながり合い 磨き合う 子どもの育成
～豊かな人間関係を基盤にした主体的に学ぶ授業づくり～」
米子市立伯仙小学校
スーパーバイザー：玉川大学 興水かおり 客員教授

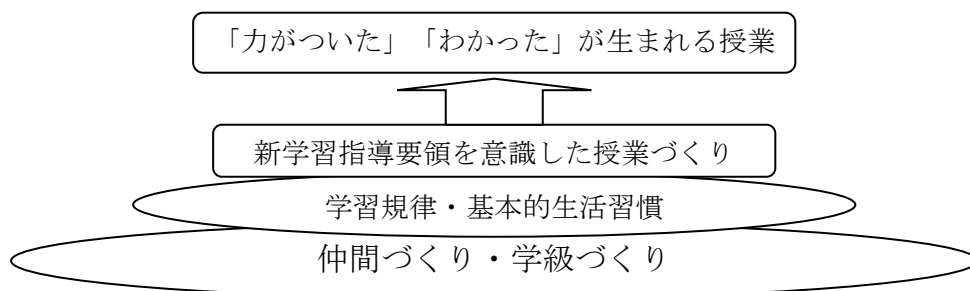
1 はじめに

本校は、昨年度より、「伝え合い つながり合い 磨き合う子どもの育成」をテーマに国語科を先導教科として研究を進めてきた。言葉を通じて伝え合う力を育成することで主体的に学び合い、つながり合い、さらに磨き合って深い学びを実現することができると考え実践していった。その成果として、子どもたちが、意欲をもって学び、友達同士かかわり合いながら学習に取り組む姿が見られるようになってきた。しかし、文章の中から精査した情報を基に自分の考えを形成したり、文章や発話によって表現したりする力が十分でないことや、自分の考えや思いを伝えるための適切な語彙が少ないことが課題となった。また、目的や場面に応じて、互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりすることができにくい状況もあった。

そこで、今年度も、「伝え合い つながり合い 磨き合う子どもの育成」をテーマに研究をさらに深めていきたいと考えた。特に「言葉による見方・考え方」と関連付けながら、生きて働く言葉の「知識・技能」や「学びに向かう力・人間性等」を育む学習指導の工夫や言語活動の充実を図ってきた。また、全員参加の授業づくりのために、単元で身に付けるべき力を明確にし、焦点化することで、どの子どもも「できるようになった。」「分かった。」と思える学習活動の工夫を行った。このような国語科学習の土台となるのは、全ての子どもが安心して学んだり、伝え合ったりすることのできる「安心・安全な学校・学級づくり」である。安心して過ごせる学校や教室にするための絆づくりや学びを支える環境となる家庭への啓発も行ってきた。このように国語科を先導教科として「言葉は心 言葉は学び 言葉は絆」をキーワードに言葉でつながり合える子どもの育成を目指し研究を進めてきた。

2 研究のねらい

- (1) 互いを認め合い、安心して自分の思いが表現できる仲間づくり、学級づくり
- (2) 「力がついた」「わかった」が生まれる授業づくり
- (3) 学習の基盤となる学習規律と基本的な生活習慣の確立
- (4) 新学習指導要領を意識した授業づくり



伯仙小学校の子どもたちに付けたい国語の力

	低学年	中学年	高学年
学びに向かう力	学習内容を知り、興味や関心をもって取り組む。	学習の目的や方法が分かり、進んで取り組む。	学習の必要感を意識し、学習の見通しを立てて取り組む。
情報を活用する力	必要な話を聞く、文章を読む、資料を調べる。	目的に応じて情報を選び、比較したり分類したりする。	目的や意図に応じて、情報を選び、分類したり関係づけたりしてまとめる。
人と関わる力	自分の考えをもち、他者の考えも聞き、意見を述べ合う。	自分と他者の考えを比較しながら、解決に向けて話し合う。	互いの知識や意見を出し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。
発信する力	自分の思いや考えを、様々な表現方法で伝える。	相手や目的に応じて、適切な表現方法を選んで伝え合う。	目的や意図に応じて、表現方法を工夫しながら場に応じて伝える。

3 研究の内容

(1) 学習活動づくり

◎単元を通して付けたい力を明確にした授業づくり

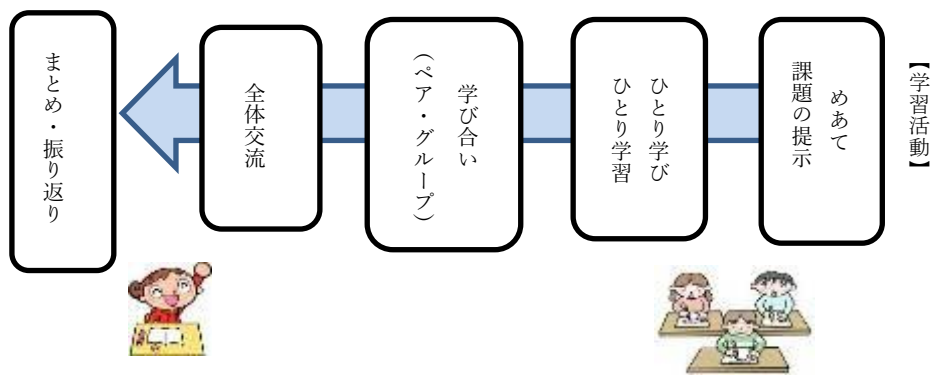
◎全員が参加できる授業づくり

〈伯仙小学校の授業スタイルの確立〉・・・「伯仙スタイル」

伯仙スタイル 授業モデル

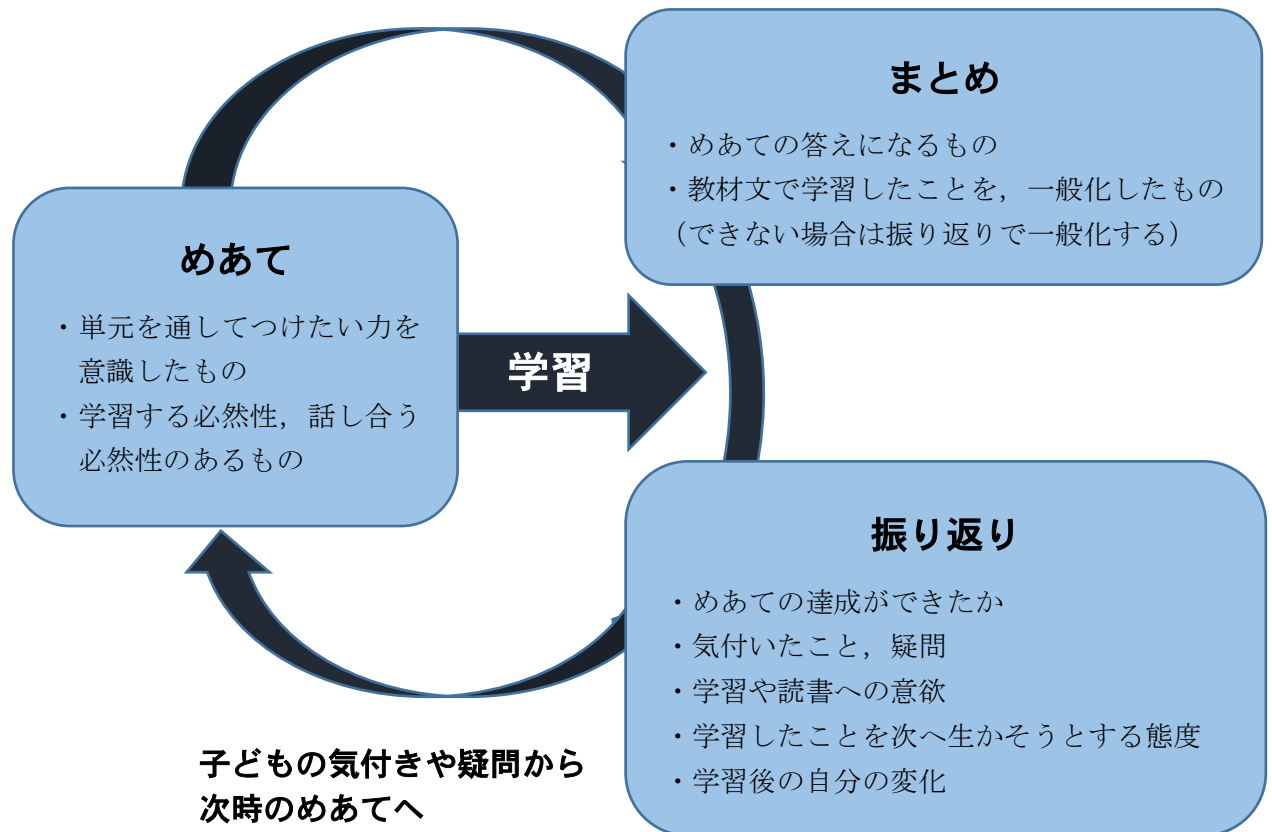
【単元を通して付けたい力】

【言語活動】



①めあての工夫とまとめと振り返りの充実

本校では、子どもにつけたい力を意識して授業を行うために、めあて・まとめ・振り返りを重視した。図のように、めあてとまとめと振り返りの一体化を図った。

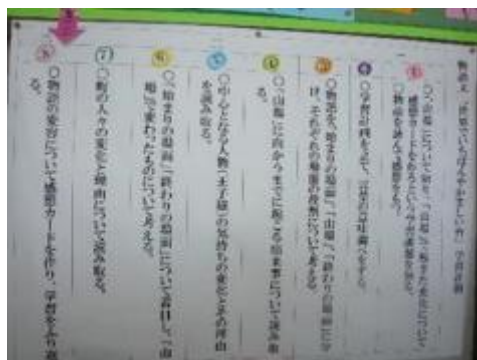


②学び合いや伝え合いの場の設定

学び合いや伝え合いの工夫として、低学年ではペア対話を、中・高学年では3・4人のグループで話し合う形を中心に、多くの人と意見交流する場を設け、人前で話す経験を積ませた。初めは話し合いの手順（マニュアル）を用意し、グループの中で進行役の司会者を立て、一人一人の意見を引き出すような手立てをし、慣れてくると司会なしでも話し合いを進められるようにした。

③全員参加の工夫・・・学習の流れの掲示，多様なワークシート

各学級が、単元ごとに1時間1時間の学習の流れを掲示している。どのようにゴールに向かって学んでいくのかを視覚的に分かりやすくし、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにしている。こうして学習計画や授業のまとめを掲示することで、学習前に本時の内容を確認する姿や学習中に掲示を振り返りながら自分の考えをまとめる児童の姿もあった。



〔5年の学習の流れ〕



〔特別支援学級の学習の流れ〕

④言葉の力の育成・・・言葉の玉手箱，ことばンク，MIMカード，辞書の活動

自分の思いや考えをまとめ、伝え合うためには、言葉を通して正確に理解したり適切に表現したりすることが大切である。しかし、児童の実態として、自分の思いや考えを伝えるための適切な語彙が少ないことがあげられる。そのために国語の時間だけでなくパワーアップなどの時間を利用して言葉を獲得するための取組を行った。

低学年では、カード（MIM）を使用した活動を行った。3つの中から正しい言葉を選んだり裏面の意味や言葉の使い方をペアで読み合ったりして楽しく活動することができた。

中学年では、語句の意味調べを行った。次の単元の語句の書かれたワークシートを使用し、意味を調べる活動を積み重ねてきた。例文を書く際は、自分で考えてもよいし、辞書の中にあるものを書いてよいこととした。また、様々な種類の言葉を集めた「ことばのたまてばこ」を使用した。

高学年では、文づくりを行った。意味調べと例文を書き込めるワークシートを使用し例文を作った。言葉を適切に使用した例文は教室に掲示し、クラス全体で理解を深めた。



〔カード（MIM）〕

熱心	力強い	はげしい	にぎやか	生き生き	活発	元気	たくましい	上等	すてき	すばらしい	さわやか	明るい	きれいな	美しい	様子を表す言葉
しみじみ	しぶしぶ	すがすがしい	にこにこ	ひらひら	ふわふわ	ざらざら	さらさら	そよそよ	きらきら	こっそり	びったり	ゆっくり	速い・早い	ふしぎ	
飲む	食べる	作る	走る	歩く	進む	行く	たずねる	聞く	歌う	となえる	数える	話す	書く	読む	行動を表す言葉
こしらえる	くつろぐ	ほほえむ	手伝う	泣く	わらう	答える	教える	調べる	知る	思う	考える	ねる	起きる	かむ	

〔ことばの玉手箱〕

実践事例 5年 「物語の山場をとらえよう」 ～世界でいちばんやかましい音～

単元のめあて

物語の構成をとらえ、山場で起きた変化について考えることができる。

言語活動とその特徴 「山場で起きる変化を感想カードで紹介しよう」

本単元では、「物語の山場で起きる変化を感想カードを作り紹介する」という言語活動を設定した。山場を意識して読むことで、構成をとらえながら物語の変容を読み取る力、物語の展開を盛り上げる優れた表現に着目し、叙述をもとに読み取る力を高めることにつながると考えた。



小グループで話し合う場を設定し、主体的に自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりして、本文の叙述に基づき思考を深めるようにした。

学び合いの工夫



めあての工夫と まとめ・振り返り



めあて

王子様のほかに「山場」で変わったことを読み取ろう。

まとめ

人々は、相手を思いやる心をもつようになり、世界でいちばん静かで平和な町になった。

振り返り

「始まりの場面」と「終わりの場面」を対比させて読むと変化が分かった。

5年

- ・穴埋め式のワークシートを活用。
- ・学習の流れや振り返りができる掲示。
- ・音読3行読み(間違えずに音読する。)

全員参加の工夫



言葉の力の育成



- ・国語辞典を使って意味調べをしたり、例文作りをしたりすることで語彙の定着を図った。
- ・読み聞かせや児童の実態に合わせた関連図書を紹介することで、興味・関心を広げた。

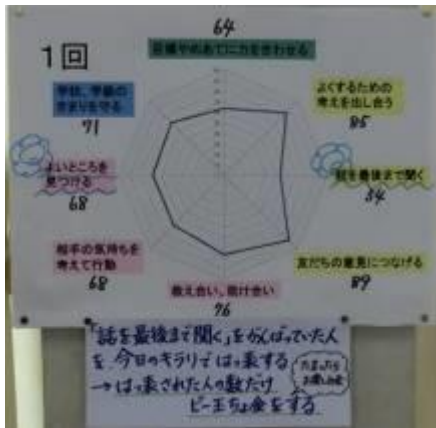
(2) 仲間づくり

◎確かな学力の基盤となる互いを高め合う仲間づくり

- ・学級力向上プロジェクト
- ・児童会の取組
- ・きらきらの木
- ・伯仙スタイル（学校生活のきまり）

◎自分の思いを伝えるための言葉の力を育てる

- ・パワーアップタイムの充実
- ・家庭学習の習慣の定着



(学級力向上プロジェクト)



(児童会の取組)

4 スーパーバイザーによる指導助言

(1) 新学習指導要領移行期における指導について

【国語科目標】「言葉による見方・考え方を働かせ」「言語活動を通して」

- ①生きて働く「知識及び技能」の習得…これが一番大切にされている
- ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ③人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養

(2) 授業について

①授業改善の基本的視点

主体的・能動的学習，一人一人の子どもが主人公の国語教室

②子どもにとって学習の目標が明確な授業

授業デザイン「つけたい力」→「どう活動するか」→「どう評価するか」

指導目標を明確にした言語活動の充実←教師の創造性

③学びの成果を使える見通しのある授業

9年間を通した指導の系統性，学びへの目的意識

④自分との対話力を育てる授業

自分の考えの根拠を明確にする習慣…正確に読む

⑤「主体的・対話的で深い学び」を引き出す教師の働きかけ

意識的な発言…価値づける，再考を促す，ゆさぶる，要約する
継続力を生む自己実現感のある評価…相互評価，対話的活動

5 研究のまとめ

(1) 成果

- ・単元でつきたい力や学年の系統性を意識して授業づくりを行うことができた。特に、新学習指導要領で大切にされている「知識及び技能」の習得のために、その基盤となる確かな言語能力に焦点を絞って授業づくりや教材研究を行うことができた。
- ・「めあて」と「まとめ・振り返り」が一体化することを共通理解したことで、教師も児童も見通しをもって授業を進めることができた。一般化した振り返りを書いている児童を意図的に取り上げ、そのよさを評価して全体に広げることができた。
- ・学び合いや伝え合いの場面で、発問やグループ形態の工夫や思考ツールの活用を行うことで、すべての児童を学びのステージにあげることができた。
- ・カード（MIM）や国語辞典を使った意味調べ、「ますます作文」などの日常的な指導により言葉の力をつけることができた。
- ・全職員で教材研究や発問づくり、言葉の力の育成について協議することで、新学習指導要領を意識した授業づくりを行うことができた。

(2) 課題

- ・「めあて」と「まとめ・振り返り」の充実を図っていく必要がある。子ども達が「学びたい」「知りたい」と思えるような課題の設定を工夫していきたい。
- ・単元でつきたい力を明確にし、どんな活動なら「目標とする力」が育つのかという視点で言語活動の充実を図っていきたい。
- ・質の高い話し合い活動にするために、教師の意図な発問や評価を大切にしていきたい。子どもの意見を価値づけたり、まとめたりするなど思考を促す教師の働きかけを仕組んでいきたい。
- ・言葉の力を育むためには、日常生活の中で用いることが不可欠なので、児童がかかわり合いながら楽しく取り組める学習活動を取り入れていきたい。
- ・図書館利用や司書教諭との連携を行い、読書への関心を広げる工夫をしていきたい。
- ・国語で学んだ力を他教科に広げ、情報を活用する力や人と関わる力、発信する力を全教科全領域で育てていきたい。

6 おわりに

本年度、玉川大学客員教授 輿水かおり先生にご指導いただき、新しい学習指導要領に準じた国語科の授業研究を通して、一人一人の子どもが主人公の国語教室を目指すことができた。また、国語科の授業づくりだけでなく授業に臨む教師の姿勢や新しい時代を創造する教師のあり方についても学ぶことができた。今後も「言葉」を大切にしたい授業づくりに取り組んでいきたい。